平成29年度



# 

~未来のこどもたちのために~



~蘭島及び三田・清水の農山村景観~

活動期間:平成29年10月~平成30年9月

作成日:令和元年8月31日

株式会社 坂口製作所

弊社の生産拠点である和歌山工場は、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の高野山から流れ出る有田川の上流域にある有田川町清水地区にあります。清水地区には、奇観の棚田として知られている蘭島(あらぎ)島があります。

平成25年10月、あらぎ島と周囲の景観が「蘭島及び三田・清水の農山村景観」として、全国で36番目、和歌山県では初めて国の重要文化的景観に選定されました。ここで、私たち自慢のこの景観を少し御紹介致します。



<春:田植え準備のあらぎ島>



<夏:稲が青々としたあらぎ島>



<秋:朝霧とあらぎ島>



〈冬:雪化粧のあらぎ島〉

## ● 蘭島及び三田・清水の農山村景観とは

大部分を山間地が占める自然条件下にあって、有田川の蛇行と浸食によって形成された河岸段丘を舞台に、稲作や林業、和紙生産などこれまでの人々の活動によって形成された独自性の高い文化景観です。この地域は長久3年(1042)の高野山文書に記載されるなど早くから開発が行われてきましたが、江戸時代には大庄屋笠松左太夫による集落整備と耕地開発が遂行されました。笠松は、明暦元年(1655)に3km以上にわたって上湯(うわゆ)用水路を開削し、蘭島において新田開発を行いました。

この景観は、何千年にもわたり絶え間なく繰り返されてきた人々の営みによって生み出され、現在に受け継がれてきた貴重な文化遺産であり、蘭島を中心とした一体性のある農山村景観は、全国的にも高く評価されています。

## ●蘭島(あらぎ島)

明暦元年(1655)山保田組の初代大庄屋であった笠松左太夫によって開発された新田。有田川に沿って弧状をなす扇形とも表現される棚田は、全国的にも価値の高い景観です。

#### ●笠松左太夫

江戸時代の山保田組(現在の有田川町清水地区)の初代大庄屋で、私財をなげうって数多くの灌漑用水路を開削し、あらぎ島をはじめとした多くの新田開発に取り組んだ郷土の偉人です。隠居した万治年間(1658~1661)には、小峠地区(写真の左側の集落)を紙漉き村として開拓し、現在まで続く保田紙を創始しました。



12月末から2月初旬まで開催された 「あらぎ島イルミネーション」

# 目次

●会社概要・・・・・・・・・・・・・・・・・<1>
●環境経営方針・・・・・・・・・・・・・・・<2>
●実施体制図・自主環境管理保全活動計画・・・・・・・・・く3>
●環境経営目標・・・・・・・・・・・・・・・・く4>
●環境経営計画の取組結果とその評価・・・・・・・・・<6>
●エコ活動への取組み・・・・・・・・・・・・<15>
●社員教育の実施・・・・・・・・・・・・・・・<16>
●地域社会への取組みその1・・・・・・・・・・・く17>
●地域社会への取組みその2・・・・・・・・・・・く18>
●地域ボランティア活動に協力・・・・・・・・・・・く19>
●健康宣言を実施しました・・・・・・・・・・・・く20>
●健康経営優良法人2018に認定・緊急時避難訓練の実施計画・・・・<21>
●他社・社外機関の工場見学を受け入れ・・・・・・・・・<22>
●台風による被害・・・・・・・・・・・・・・<23>
●環境関連法規制の取りまとめ・代表者による全体の評価と見直し・・・<24>

# 会社概要

●事業者名:株式会社 坂口製作所

●代表者名:代表取締役社長 坂口 清信

●所 在 地:

★本社 〒557-0054 大阪市西成区

千本中2丁目4番14号



従業員数:10名 敷地面積:553㎡

●事業年度:10月~9月

●事業規模:製品出荷額 11億円/年

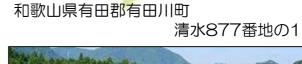
●事業内容:工業用各種アルミ・ステンレス製品の設計、開発、製造、加工及び販売

●主要製品:鉄道車輌部品、信号器具箱、工業用各種トレー、空調関連機器等





<信号器具箱>



★和歌山工場

**T**643-0521



従業員数:72名 敷地面積:11,200㎡



<食品工業用・製薬用トレー>



<FFU>



※左記写真はFFU(ファンフィルターユニット)と呼ばれる空調機器で、弊社オリジナルモーターを使用しています。この機器を活用した応接室を和歌山工場に設置しています。

# 環境経営方針

## ●環境経営理念

当社は工業用各種アルミ・ステンレス製品の設計・製造・加工・販売を行っている会社です。アルミ、ステンレスはいずれも高い耐食性とリサイクル性を有する素材であり、また軽量なアルミには、省エネ効果も期待できます。つまりアルミ・ステンレスは循環型社会、低炭素社会を実現する上で無くてはならない素材であり、鉄道車輌、製薬、エネルギー等あらゆる産業分野において、今後その需要が益々拡大していくことは間違いありません。これら社会の要請に応え、同素材からなる製品の普及・発展に寄与し、もって持続可能な社会の実現に貢献することは、アルミ・ステンレス加工のプロたる当社の責務であると考えます。

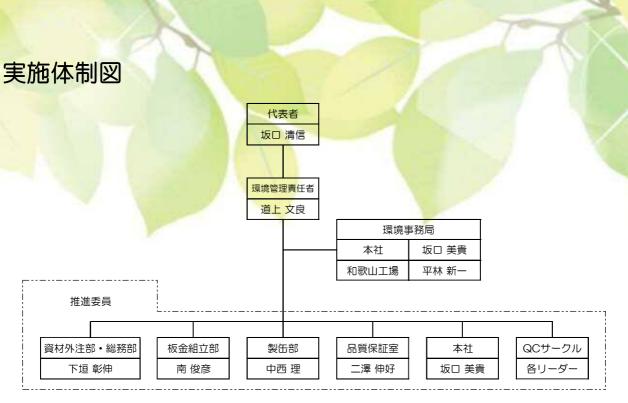
この責務を果たすには、当然ながら当社自身が維持・発展していくことが不可欠です。一方、当社が生産活動を進めていく上で、電力等のエネルギーの消費、廃棄物の発生は避けて通ることはできません。したがって当社は、売上拡大を目指しつつも同時に生産効率の向上と品質管理の徹底によりエネルギー使用量の原単位を下げ、廃棄物の発生量を極限まで低減する必要があります。

以上のことから当社は、以下の項目を重点課題と捉え、全社一丸となってこれらの課題を高いレベルでクリアしつつ、更なるレベルアップを継続的に推進することを、ここに宣言します。

## ●環境経営目標

- 1. 環境法規制や当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
- 2. 単位売上あたりの電力・化石燃料使用量を低減し、二酸化炭素 排出量の削減を進めます。
- 3. 一般及び産業廃棄物の削減を進めます。
- 4. 排水量の削減を進めます。
- 5. 地域ボランティア活動への協力等を通じて、地域社会とともに環境保全に取り組みます。
- 6. グリーン購入を計画的に進めます。
- 7. 化学物質については法令を遵守し、適正に管理します。
- 8. 製品への環境配慮を進めます。

制定日:平成22年11月4日 改定日:平成30年9月29日 代表取締役社長:坂口 清信



- 〇弊社は、推進委員会を設け全社員一体となってエコアクション活動を進めています。
- 〇各部門の部門長は、定例会議(製販会議、工程会議、安全衛生委員会)においてエコアクション 活動の進捗を確認しています。
- 〇各QCサークルのリーダーは、自サークル及びリーダー会でエコアクション活動を推進しています。

# 自主環境管理保全活動計画 (年間行事予定)

- ●環境経営計画を策定しています。
  - ★自社における環境活動をホームページ上で公開します。
    - →年間通して随時更新しています。
  - ★地域活動への協力(溶接技術指導、工場見学等)
    - →年間通して受付しております。日程については弊社までお問合せ下さい。
  - ★緊急事態対応の施行・訓練
    - →年1回実施するよう、安全衛生委員会と協議します。
  - ★事業所内の緑化活動
    - →年間通して推進しております。
  - ★騒音自主測定
    - →例年9月に実施しています。
  - ★排出水自主pH測定
    - →例年9月に実施しています。

# 環境経営目標

●環境経営目標及びその実績

平成29年度の各目標値を策定するにあたって、平成28年度の活動結果が全13管理項目のうち9項目で目標未達なことを考慮しました。本来なら未達成の項目は再調整すべきと考えますが、エコアクション活動の発展と向上を目指すため平成27年10月に作成した3ヶ年計画(平成28年度から平成30年度)の2年目の目標としました。

#### ★低炭素社会の実現に向けて

管理項目	単位	平成27年度	平成28年度 実績		評	平成29年度	平成30年度	平成31年度
2.27.2		基準値	(目標)	(実績)	価	目標値	目標値	目標値
電力使用量の削減	kWh/百万円	733.5	718.8	811.9	×	711.5	704.1	696.8
						▲ 3%	<b>4</b> %	▲ 5%
ガソリンの	L	12,282	12,036	,036 12,360 >	×	11,913	11,790	11,913
使用量削減	L	12,202	12,000		^	▲ 3%	<b>4</b> %	▲ 5%
軽油の使用量 削減	L	3,311	3,245	3,924	×	3,212	3,179	3,212
						▲ 3%	▲ 4%	▲ 5%
	L/1000H	421.4	413.0	480.7 ×	×	408.7	404.5	400.3
灯油の使用量削減	L/1000H	421.4	413.0			▲ 3%	▲ 4%	▲ 5%
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	541,962	531,123	577,114	×	525,703	520,283	514,864
の削減	kg-00 <sub>2</sub>	541,962	001,120		^	▲ 3%	▲ 4%	▲ 5%
水道水の使用量 削減	m³/1000H	4.73	4.64	5.19	×	4.59	4.54	4.49
						▲ 3%	▲ 4%	▲ 5%
化学物質の使用量 削減	kg	477.0	467.5	495.3	×	462.7	457.9	453.2
						▲ 3%	▲ 4%	▲ 5%

弊社は、本社を営業拠点、和歌山工場を生産拠点として生産活動をしています。「電力」は、和歌山工場において油圧ブレーキ機やレーザー加工機等の板金機械、製缶作業にかかせない溶接機を多数使用しているため、弊社にとっては生命線といえるエネルギーです。日々の生産活動において、改善提案を実施し作業効率向上に努めています。

#### ※各項目の評価基準について

- ○電力使用量は本社及び和歌山工場の使用量を合計し、売上百万円当たりで評価します。
- 〇ガソリン使用量は、本社及び和歌山工場の使用量を合計し、絶対量で評価します。
- ○軽油の使用量は、和歌山工場の使用量を絶対量として評価します。
- 〇灯油の使用量は、和歌山工場の12月から3月まで4ヶ月間の使用量を12月から3月までの4ヶ月間の就業時間1000時間当たりで評価します。年間使用量は通年の使用量とします。
- 〇二酸化炭素排出量は、下記排出係数にて各項目の絶対量を計算し評価します。
  - ・本社の電力における二酸化炭素排出係数は、0.509kg-CO2/kWhで算出します。
  - ・和歌山工場の電力における二酸化炭素排出係数は、0.634kg-CO2/kWhで算出します。
  - ガソリンの排出係数は、絶対量(L)×0.0671(kg-CO2)×34.6(MJ/L)で算出します。
  - 軽油の排出係数は、絶対量(L)×0.0687(kg-CO2)×38.2(MJ/L)で算出します。
  - 灯油の排出係数は、絶対量(L)×0.0679(kg-CO2)×36.7(MJ/L)で算出します。
- 〇水道水は、本社及び和歌山工場の使用量を合計し就業時間1000時間当たりで評価します。
- 〇化学物質は、和歌山工場で使用している油脂洗浄剤に含まれるトルエンの使用量を指し、 絶対量で評価します。
- 〇売上百万円当たり及び就業時間1000時間当たりで評価する各項目の年間使用量は、通年の使用量とします。

# ★循環型社会の実現に向けて

管理項目	単位	平成27年度	平成28年度 実績		評	平成29年度	平成30年度	平成31年度
		実績値	(目標)	(実績)	価	目標値	目標値	目標値
一般廃棄物の削減	kg	3,366	3,299	2.956	856 ×	3,265	3,231	3,198
	7,5	0,000	0,200	0,000		▲ 3%	▲ 4%	▲ 5%
混合廃棄物の削減	kg/百万円	1.04	1.02	0.79	0	1.01	1.00	0.99
龙口光来初0万时城	NS/ E/3/13	1.04	1.02	0.79		▲ 3%	▲ 4%	▲ 5%
廃プラスチックの	%	89.9	91.7	92.0	0	92.6	93.5	94.4
削減	70	69.9	91.7	92.0		△ 3%	△ 4%	△ 5%
再加工材料費の	金額指標	100.0	100.0	320.4	×	47.1	47.1	47.1
削減	亚铁扫标	100.0	100.0	520.4	^	▲ 52.9%	▲ 52.9%	▲ 52.9%
梱包資材の購入量	kg/百万円	2.66	2.61	2.19	9 0	2.58	2.55	2.53
削減	KE/ H/JID	2.00	2.01	2.19		▲ 3%	▲ 4%	▲ 5%
グリーン購入金額	購入金額 20 550 670	0	55.0	55.0	55.0			
比率の向上 %	64.6	55.0	67.0	0	_	_	_	

日々、生産活動をする上で、廃棄物は毎日発生しています。私たちは可能な限り分別し3Rを実践しています。生産活動で使用するアルミ・ステンレスの剰余材は材質別に加え合金別(アルミの場合:A5052、A5083等3種類、ステンレスの場合:SUS304、SUS430等2種類)に分別し、有価物として業者に回収されリサイクルされています。

## ※各項目の評価基準について

- 〇一般廃棄物とは、和歌山工場では製作図面等のシュレッダーくずや一般的な燃えるごみを、本社では業者に回収されているシュレッダーくずを含まない一般的なもえるごみを指し、それぞれ合計し絶対量で評価します。
- 〇混合廃棄物とは、和歌山工場から排出され安定型最終処分場で埋立処分される産業廃棄物を指し、売上百万円当たりで評価します。年間排出量は、通年の排出量とします。
- 〇廃プラスチックとは、和歌山工場から排出される廃プラスチック排出量に対するリサイクル量の比率を再利用率として評価します。年間排出量は、通年の排出量とします。
- 〇再加工材料費とは、本来なら必要としない再加工による材料費を指します。評価方法は 環境経営計画書では金額で評価していますが、環境経営レポートは基準年度比の金額指 標としています
- 〇梱包資材購入量は、和歌山工場において梱包時に使用するエアーキャップやストレッチフィルムの購入量を指し、売上百万円当たりで評価します。年間購入量は、通年の購入量とします。
- 〇グリーン購入比率とは、本社及び和歌山工場で購入する資材類のうち、事務用品の購入 を対象とし購入総額に対する環境対応商品の購入割合を指し、金額指標で評価します。

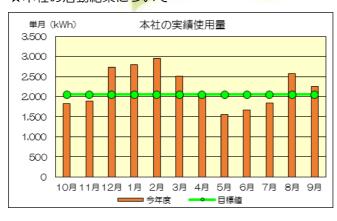
以上のような3ヶ年計画を策定していますが、弊社は完全受注生産方式なので当初想定していた以上に受注量や短納期対応件数が増加した場合は、やむを得ずエコアクション活動を実践しても目標達成出来ない項目が生じる可能性があります。この場合は、原因を把握し、次年度以降の計画を見直します。

次ページより、各項目における本社の活動成果、和歌山工場の活動成果から事業所全体の活動成果を評価します。

# 環境経営計画の取組結果とその評価

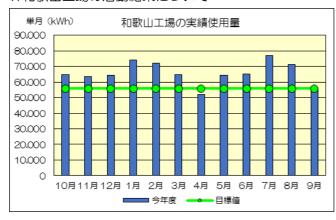
- ●電力使用量の削減(本社・和歌山工場共通)
  - ★環境活動計画
    - ・西日対策による夏期冷房温度の抑制
    - ・空調温度の最適化推進
    - エリア別照明点灯及び場内照明の間引き点灯推進
    - 未使用パソコンの電源オフ徹底

## ★本社の活動結果について



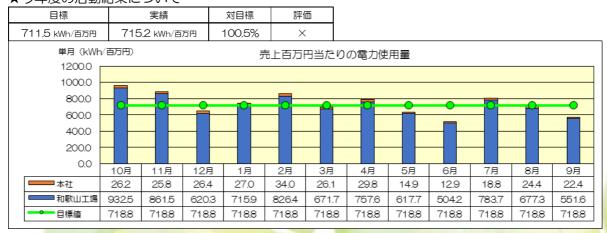
営業拠点である本社では、西日対策による夏期冷房温度の抑制や空調温度の最適化など屋内における電力使用量削減対策を実践しました。しかし、冬期の冷え込みの厳しさにより空調温度を高く設定したことや夏期において熱中症予防のため空調温度を低く設定した為、実績使用量は目標値に対し約2千kWh、比率にして108.3%も増加しました。今後はクールビズ、ウォームビズを推進し電力使用量削減に努めます。

### ★和歌山工場の活動結果について



生産拠点である和歌山工場では、板金機械や溶接機を設置しており日々の生産活動で多量の電力を消費しています。その為、仕事量が増加すると納期対応による残業や休日出勤が増え必然と使用量は増加します。また不良発生による再製作機会を削減出来ず電力使用量の増加要因とはいます。今年度の実績使用量は日本の約119,000kWh、比率にして19.1%も増加しました。今後は不良が発生しないよう各工程における自主検査の徹底を実施し、不必要な電力使用量の削減に努めます。

# ★今年度の活動結果について



弊社の事業所全体における電力使用量は96%以上を和歌山工場が占めています。今年度は本社、和歌山工場それぞれで使用量削減に努めましたが実績使用量は約121,000kWhも増加しました。今年度の評価基準である売上百万円当たりの使用量は、目標値に対し100.5%と僅かに増加し目標未達成となりました。これは今年度の売上が増加したことで指標が抑えられたためと考えます。

# ●ガソリン使用量の削減(本社・和歌山工場共通)

#### ★環境活動計画

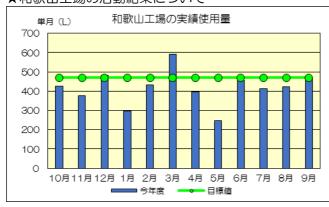
- エコドライブの推進
- 外出時、可能な範囲での乗合せ
- 公共交通機関の利用促進

### ★本社の活動結果について



本社は、営業活動において公共交通機関を可能な限り利用するよう推進しています。しかし、必ずしも訪問先が駅に近接していると限らず、訪問工程次第では社用車を利用した方が効率よく回れる場合があり使用量削減には至っていません。また、今年度は和歌山工場での組立作業の応援に向かったため、より一層、増加させる結果となりましたに。今年度の実績使用量は目標値に対し約1,450Lも増加しました。今後も引続きエコドライブや公共交通機関の利用を推進し使用量削減に努めます。

#### ★和歌山工場の活動結果について



和歌山工場は、立地条件から最寄りの駅や高速道路まで遠く客先訪問や出張時は社用車を利用しなければなりません。今年度はエコドライブの推進や外出時の可能な範囲での乗合せを推進した結果、今年度の使用量は目標値に対し約620L削減出来ました。また使用機会が減少したことも使用量削減の要因と考えます。今後も引続きエコドライブや公共交通機関の利用を推進し使用量削減に努めます。

#### ★今年度の活動結果について



今年度の事業所全体におけるガソリン使用量は本社が約60%を占め、電力使用とは逆の結果になりました。これは、本社から和歌山工場への作業応援などにより社用車の使用機会が増加したことに加え営業活動による長距離移動が要因と考えます。今年度の実績使用量は、目標値に対し約830L、比率にして106.9%も増加し目標未達成となりました。今後もエコドライブや公共交通機関の利用を推進しますが、次回の社用車を切替る際は更なる低燃費車やハイブリッド車を導入することでハード面で使用量削減対策が出来ないか検討します。

# ●軽油使用量の削減(和歌山工場のみ)

#### ★環境活動計画

- エコドライブの推進
- 外出時、可能な範囲での乗合せ
- ★今年度の活動結果について





軽油仕様の社用車は和歌山工場でのみ保有しており客先への納品や外注加工業者への部材搬入や引取り、出張工事など様々な用途で利用しています。その為、今年度の利用機会は増加してしまい、実績使用量は目標値に対し約1,200L、比率にして136.6%も増加し目標未達成となりました。年々、軽油使用量は増加傾向にあります。運送業者に依頼すると運送コストが発生しますが、受注した製品が、社用車で搬入・納品出来る場合、社用車で搬入することにより運送コストは削減できます。しかし軽油使用量削減のためには運送業者に依頼することも対策の要因と考えます。

# ●灯油使用量の削減(和歌山工場のみ)

## ★環境活動計画

• 石油ストーブの使用基準の徹底

#### ★今年度の活動結果について





弊社では、和歌山工場で冬期に使用する暖房機器の燃料として灯油を利用しています。和歌山工場は、立地条件から冬期の朝は冷え込みが厳しく気温が○○を下回り、日中でも最高気温が10○を上回らない日が多々あります。それに加え残業が発生すると暖房機器の長時間使用につながり使用量増加の要因となっています。今年度の通年における実績使用量は目標値に対し約7,400Lと大幅に増加、評価基準である12月から3月までの就業時間1000時間当たりに対する使用量は目標値に対し128.8%も増加し目標未達成となりました。今後は可能な限りウォームビズを推進し使用量削減に努めます。

# ●二酸化炭素排出量の削減(本社・和歌山工場共通)

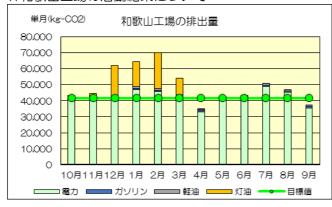
## ★環境活動計画

- 電力使用量を削減する
- ・化石燃料の使用量を削減する
- ★本社の活動結果について



本社では、電力及びガソリンの使用により 二酸化炭素を排出しています。今年度は各項目において削減対策を実践しましたが、 目標値より電力使用量が108.3%、ガソリン使用量が123%とそれぞれ増加したことにより実績二酸化炭素排出量は目標値より約4,400kg-CO2比率にして116.2%も増加し目標未達成となりました。今後は各項目における使用量削減対策を実践し使用量の削減に努めます。

### ★和歌山工場の活動結果について



和歌山工場では、電力、ガソリン、軽油、 灯油の使用により二酸化炭素を排出しています。今年度は、ガソリン使用量のみ目標 値より削減出来ましたが、その他の使用量 が増加したことにより実績二酸化炭素排出 量は目標値に対し約95,000kg-CO2、比率にして119.2%も増加し目標未達成となりました。

今後は各項目における使用量削減対策を 実践し使用量の削減に努めます。

#### ★今年度の活動結果について



事業所全体で二酸化炭素排出に関する各項目において削減対策を実践しましたが、本社では、電力、ガソリンの各使用量で目標値より増加となりました。一方、和歌山工場ではガソリン使用量は目標値より削減出来ましたが、電力、軽油、灯油の各使用量は目標値より増加となりました。その為、今年度の実績二酸化炭素排出量は目標値に対し約97,000kg-CO2、比率にして118.3%も増加し目標未達成となりました。今後は、各項目における削減対策を確実に実践し排出量削減に努めます。

# ●水道水の使用量の削減(本社・和歌山工場共通)

#### ★環境活動計画

- 節水の呼びかけ(本社・和歌山工場共通)
- 洗浄工程の見直し、ルール化による使用量削減(和歌山工場のみ)

#### ★本社の活動結果について



本社での水道水の使用用途は主に生活用水です。今年度の各月における使用量がほぼ7~10m3の範囲で推移していることから必要最低限の使用量と考えます。なお8月は、お盆休み前の大掃除や社用車の洗車に使用したことで特出した使用量となりました。しかし、今年度の実績使用量は目標値に対し6.5m3、比率にして94.3%まで削減出来ました。今後も引き続き節水を呼びかけ使用量の増加の抑制に努めます。

#### ★和歌山工場の活動結果について



和歌山工場では、受注した仕事内容により部材を洗浄する工程が生じその月の使用量増加に影響します。和歌山工場では、水道水に加え井戸水も使用出来る場所がありますが、主に溶接機の循環冷却水として利用しているため使用用途は限られます。なお1月は凍結による水道管破裂が発生し特出した使用量増加の要因となりました。今年度の実績使用量は、目標値に対し110m3比率にして115.9%も増加しました。今後は冬期の水道管破裂対策も必要と考えます。

#### ★今年度の活動結果について



事業所全体における通年での実績使用量は、本社では生活用水として主に使用しているため節水を呼び掛けたことで必要最低限まで抑えられ目標値より削減出来ました。一方、和歌山工場では1月に発生した凍結による水道管破裂の影響で目標値より増加しました。その為、目標値に対し104m³、比率にして112.9%も増加しました。今年度の評価基準である就業時間1000時間当たりの使用量は、目標値に対し0.65m³/1000H、比率にして114.2%も増加し目標未達成となりました。もし1月の実績使用量が過去5年間の平均的な使用量だった場合、使用量は4.88m³/1000Hまで抑えられ、年間使用量も目標値より0.28m³/1000H、比率にして106.1%と増加幅は抑制出来たと考えられます。今後は、洗浄工程発生時の節水の推進と水道管の点検を実施し不必要な使用量増加を防ぎます。

# ●化学物質の使用量削減(和歌山工場のみ)

## ★環境活動計画

- 代替材の使用量拡大
- 化学物質の適正管理
- ・化学物質を大量に使用する場合のルール決定

#### ★今年度の活動結果について



弊社における化学物質とは、和歌山工場において使用する洗浄剤に含まれている化学物質を指します。この洗浄剤は板金加工で部材に付着した油脂や、ノコ切断によって付着した油脂の洗浄剤として使用しています。少量の部材の場合はウエスを洗浄剤で湿らせ拭き取りますが、板材に無数の小さな穴が空いている部材や切欠き個所が多い部材などの小物大量部品の場合は、金型の保護や切れ味を維持するため多量に油脂を使用しており、拭き取りではなく大口容器に洗浄剤を入れ浸漬させて洗浄するため使用量増加の要因となります。今年度の実績使用量は、目標値に対し41.9kg、比率にして109.1%も増加し目標未達成となりました。今後は、代替材使用の更なる普及と板金加工時の可能な限りの油脂抑制を推進し使用量の削減に努めます。

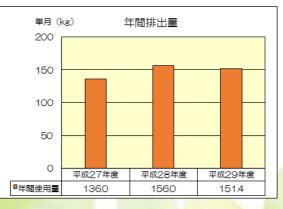
## ●一般廃棄物 (燃えるごみ) の排出量削減 (本社・和歌山工場共通)

## ★環境活動計画

- ・ 分別回収の徹底
- ・1枚ベスト運動の推進
- LANの有効活用による紙文書の削減

## ★本社の活動結果について





本社は、営業の拠点としているため家庭からでるような形態の燃えるごみを排出しています。今年度は、7月に禁煙ブースの設置に伴う室内の配置替えを実施し不要なものを廃棄したため排出量は増加しました。また、仕事量の増加により排出量も増加する傾向にあります。今年度の実績排出量は目標値に対し19.5kg、比率にして114.8%も増加しました。今後は分別回収やLANを有効活用し、合わせて可能な限り裏紙を使用することで排出量の削減に努めます。

#### ★和歌山工場の活動結果について





和歌山工場から排出する燃えるごみは、社用車で地域のごみ焼却施設まで搬入しています。その為、社用車で搬入できる最大量まで一定期間保管し排出機会を抑制し燃料使用量削減にも努めているので排出機会が無い月が生じます。今年度は、板材購入時の包装紙などを工場から発送する宅急便などの梱包紙として再利用したことで、実績排出量は目標値に対し473kg、比率にして84.9%まで削減出来ました。今後も引き続き再利用を推進し排出量削減に努めます。

#### ★今年度の活動結果について



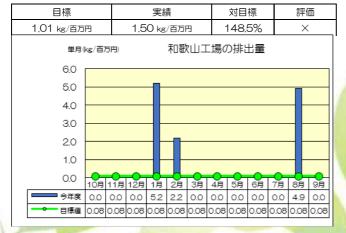
事業所全体では、目標値に対し本社で増加しましたが和歌山工場では削減することが出来ました。その為、今年度の実績排出量は目標値に対し454kg、比率にして86.1%まで削減することが出来、目標達成できました。引き続き分別回収の徹底やLANを有効活用し排出量の削減に努めます。

## ●産業廃棄物(混合廃棄物)の排出量削減(和歌山工場のみ)

#### ★環境活動計画

- 3Rの推進
- ・ 分別の徹底
- ・サンダーディスクの長寿命化

## ★今年度の活動結果について



今年度は、仕事量が増加したことにより日々の生産活動で使用するサンダーディスクや、溶接機の部品などの消耗品の排出が増加したことで、通年での排出回数も増加しました。今年度の実績排出量は、目標値に対し270kgも増加し評価基準である売上百万円当たりの排出量は、目標値に対し0.49kg/百万円、比率にして148.5%も増加し目標未達成となりました。今後は、消耗品の長寿命化を図れるような作業方法の改善と分別回収を徹底し排出量の削減に努めます。

# ●産業廃棄物(廃プラスチック)の排出量削減(和歌山工場のみ)

## ★環境活動計画

- 保護テープ以外のキズ防止策による使用量削減
- ・キズ防止策の構築
- ★今年度の活動結果について



弊社は、和歌山工場から出るキズ保護テープ等のプラスチック品を廃プラスチックとして排出しています。この廃プラスチックのうち、業者に回収されリサイクルされる量を再利用率として評価します。近年、お客様の外観品質要求が高まり工程時に発生するキズを防ぐため、キズ保護テープが欠かせません。しかし、製品が完成するとはがして納品することが多く廃棄となりますが、比較的汚れていないものは業者に回収されリサイクルされています。今年度の実績排出量と回収量の合計は仕事量増加の影響で増加しました。中でも業者に回収されない溶接ワイヤのスプールなどが増加したことで排出量が著しく増加し、再利用率が73.1%に留り目標値に対し19.5ポイントも悪化し目標未達成となりました。今後もお客様の外観品質要求は高まっておりキズ保護テープの使用増加すると考えられます。仕事量の変化により再利用率も変動することは避けられません。

# ●再加工材料費の削減(本社・和歌山工場共通)

#### ★環境活動計画

- 素材の歩留まり向上
- ・加工ミスによる素材損出の削減

#### ★今年度の活動結果について



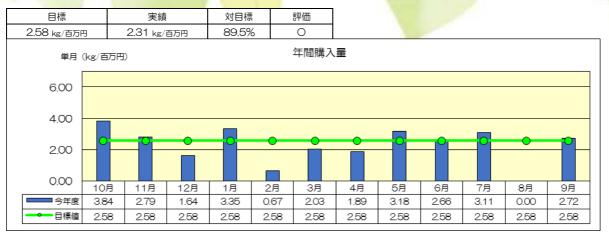
不良発生による再製作は不必要な素材とエネルギーの消費となり、同時にコストの増加にもつながります。展開時は素材の歩留まりを向上させていますが、一つの再製作により余分な素材の購入と残材が残ります。弊社は、品質保証室の指導のもと自主検査の徹底を推進し不良発生の削減に努めていますが、逆に増加しており現状ではまだ削減には至っていません。今年度の不良発生による再加工材料費は目標値に対し366.8%も増加し目標未達成となりました。今後も品質保証室と協力し不良削減に努め、弊社における永久的な課題の解決に努めます。

# ●梱包資材の購入量削減(和歌山工場のみ)

#### ★環境活動計画

- 外注先搬入時の通い台車の利用促進
- 梱包の簡素化による使用量削減
- 梱包資材のリユース促進

#### ★今年度の活動結果について



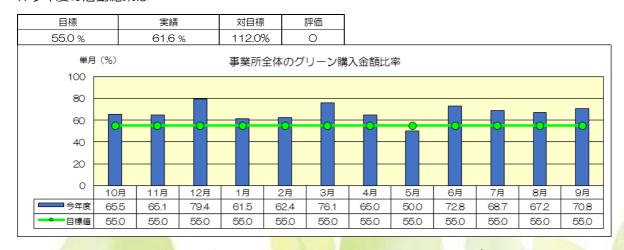
製品の梱包に使用されるエアーキャップ等の梱包資材は、製品使用時には取り外され廃棄物になってしまいます。ここで弊社では梱包の簡素化や外注加工業者への部材配送時に通い台車を活用することで、梱包資材の購入量削減に努めています。今年度の実績購入量は目標値に対し114.6kgも増加しました。しかし、評価基準である売上百万円当たりの購入量は売上が増加したことにより目標値に対し0.27kg/百万円削減でき目標達成できました。今後も引き続き梱包の簡素化や通い台車を有効活用し購入量の削減に努めます。

## ●グリーン購入金額比率の工場(本社・和歌山工場共通)

# ★環境活動計画

- グリーン購入金額の比率の向上
- ・グリーン対応商品の周知
- ・環境ラベルの周知

#### ★今年度の活動結果は



弊社は、製品を製作するためにボルト類の金属部品や前述の梱包資材などのプラスチック商品、お客様の希望される商品に加え事務用品まで様々な商品を購入しており、すべての購入品に対し環境対応商品を優先して購入するには限界があると認識しています。その為、事務用品に対し優先して購入するよう推進しています。今年度は、本社のグリーン購入金額比率は71.7%、和歌山工場は59.3%と目標値を上回りました。事業所全体では目標値に対し6.6ポイント向上する61.6%となり目標達成できました。今後も、引き続き環境対応商品の可能な限りの優先購入を実践していきます。

# エコ活動への取組

●QCサークル活動で環境への取組みを推進しています。

弊社ではQCサークル活動で環境への取組みをサブテーマに掲げ活動を推進しています。今年度の各サークル活動の一例を紹介します。この活動は現在も継続中です。

★間引き点灯で節電しています。



★裏紙を再利用しています。



主に事務所内で作業しているサークルは、蛍光灯の間引き点灯で節電を実践しています。印刷時は可能な限り裏紙を再利用して、資源の有効活用やコスト削減を実践しています。

★タオルウエスの再利用を実践しています。



現場で使用したタオルウエスのうち、比較的汚れていない物を選別して洗い再利用しています。なお、二度目に使用した後もあまり汚れていなければ再度洗い使用しています。そうすることで、新品5箱分相当の再利用につながり、約65,000円の新品購入費削減に成功しました。

★エコキャップを回収しています。





食堂やゴミ箱の横に エコキャップ回収箱 を設置しています。

弊社の活動が、社会福祉協議会で発行されている広報誌に掲載されたことで、

地域の方々からもキャップを提供いただけるようになりました。

地域のみなさまありがとうございます。

- ●剰余材を有効活用して社内の備品を製作しました。
  - ★パーティションを作成しました





アルミニウムの剰余材を活用して、食堂のパーティションを作成しました。模様はあらぎ島や伊達巻き模様をNCTで加工しています。弊社で所有している金型なら様々な模様の加工が可能です。

# 社員教育の実施

●全社員を対象にした中間報告と結果報告を実施しています。

弊社では11月と5月に開催しているQCサークル活動報告会の後、社長よりエコアクション活動の中間報告(5月)と結果報告(11月)を実施し、今後の活動につながるよう啓発しています。

## ★11月の中間報告



# ★5月の結果報告



●掲示板を活用しています。



弊社は食堂にエコアクション活動を紹介する掲示板を設置しています。この掲示板では、各月の管理項目グラフ表や弊社のエコ活動が掲載された新聞記事、広報誌等を掲示しています。

また、管理項目グラフ表は従業員に回 覧して活動推移が分かるよう実践してい ます。

# 地域社会への取組みその1

- ●地元小学生の工場見学を実施しています。
  - ★平成29年10月6日、有田川町内で最も児童在籍数が多い藤並小学校の3年生の皆さん 引率の先生、合計130名が和歌山工場の見学に来られました。当日は、バス2台で来 社され、場内では3班に分かれて見学頂きました。





★平成29年12月4日、旧清水町内の八幡小学校3年生の12名、引率の先生3名、安諦 小学校と久野原小学校の3年生各1名、引率の先生各1名の合計19名が和歌山工場の 見学に来られました。





★平成30年8月7日、弊社を退職された社員さんが、夏休み中に帰省されたお孫さんと一緒に和歌山工場を見学に来られました。夏休みの宿題に活用されるそうです。





- ●地元中学生の体験学習を実施しています。
  - ★平成30年9月19日から21日までの3日間、八幡中学校の生徒さんの体験学習を実施しました。





# 地域社会への取組みその2

●箕島高校機械課の活動が掲載されました。



★平成30年3月、地域で発行されている新聞「有田タイムス」に以前から溶接実習の指導を実践している箕島高校機械課3年生が実習で製作したアルミニウム製朝礼台を有田市立箕島小学校に寄贈した記事が掲載されました。朝礼台は、軽くて運び易いと好評なのだそうです。

- ●有田川エコバックに協賛しました。
  - ★平成30年4月、有田川エコプロジェクトの一環で有田川エコバックの製作に際し、 協賛させて頂きました。





●かもめタウン大作戦へ協賛しました。





★平成30年6月、かもめーる (暑中・残暑見舞はがき)で 特殊詐欺被害防止を呼びか ける有田川町内の郵便局の 活動「かもめタウン大戦」に 協賛させて頂きました。

# 地域のボランティア活動に協力

- ●地域のボランティア活動に協力しました。
  - ★平成29年11月6日、従業員や地域の皆様の御協力の下、回収出来た13,126個もの エコキャップを有田川町社会福祉協議会清水事務所に提出しました。





後日、社会福祉協議会で発行されている広報紙「社協有田川」2018年1月号に弊社の エコキャップ運動を掲載して頂きました。弊社は、引き続きエコキャップ運動を継続 します。

★平成29年11月21日、従業員の皆さまや弊社に送られた郵便物から回収した使用済み 切手をきのくに信用金庫様に提出しました。きのくに信用金庫様では、皆様から収集



した使用済み切手やテレフォンカードを和歌山県ボランティアセンターに配送されており、そこでボランティアの方により仕分けられ業者で換金されているそうです。その換金されたお金は和歌山県善意銀行に預託されています。

和歌山県善意銀行では「福祉のために」と寄付頂いた預託金で、お年寄り や障がいを持つ人等への助成や、県内のボランティア団体等の福祉活動費として活用されているそうです。 ★平成30年1月10日、弊社の従業員が有田川町消防出初式に参加しました。弊社では 通常の就業時間内に火災が発生した場合、各分団に所属している従業員が消火活動に 向かいます。和歌山工場のある旧清水町内には合計7分団あり、総勢25人が各地域の 消防団に所属しています。工場周辺地域は清水支団第4分団の管轄です。





★平成30年5月28日、和歌山工場に献血車が来場され大勢の従業員が献血に協力しま した。



# 健康宣言を実施しました

- ●全国健康保険協会大阪支部に「健康宣言」を行いました。
  - ★平成29年12月2日、全国健康保険協会大阪支部に「健康宣言」を行い、この度「健康 宣言の証」を交付頂きました。今後は従業員が健康で元気に仕事に取り組めるよう、 健康経営の推進に努めます。



# 健康経営優良法人2018に認定

- ●健康経営優良法人2018に認定されました。
  - ★平成30年2月、健康経営優良法人認定制度の「中小企業法人部門」で健康経営優良法人に認定されました。この制度は、地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取組をもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業の法人を顕彰する制度で経済産業省が進めているものです。





★平成30年7月に成立した改正健康増進法では、多くの人が利用する施設の屋内が原則禁煙となり喫煙専用の室内でのみ喫煙できるようになりました。弊社ではこの法律を順守するため、平成30年9月11日、本社の事務所内にクリーンブースの技術を応用した自社設計の分煙ブースを設置しました。今後は和歌山工場でも設置予定です。





# 緊急時避難訓練の実施計画

- ●緊急時避難訓練を次年度実施します。
  - ★以前から課題であった緊急時避難訓練実施に向け、安全衛生委員会で協議を重ねてきました。その結果、次年度早々に火災避難訓練を実施することになりましたので、議事録より抜粋しこれまでの主な経緯を報告致します。

## 平成29年10月17日(第174回)

・火災避難訓練の実施に向けての計画は中断しています。避難訓練に合わせ普通救命 講習の実施(希望者を募って)も検討して下さい。(道上工場長)

#### 平成30年8月21日 (第184回)

・訓練内容を決めるに関し、火災訓練・心肺蘇生法を実施する場合について、訓練の 実施要領、所要時間などに対し、消防署より色々なパターンの情報を入手します。 その後、実施訓練を決める予定です。

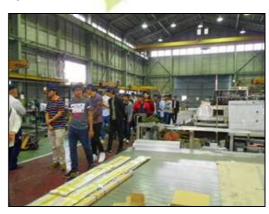
# 平成30年9月18日 (第185回)

・平成30年10月27日、「火災避難訓練及び消火器取り扱い講習の実施」します。

# 他社・社外機関の工場見学を受け入れ

- ●研修で来日された海外で働いている皆様の工場見学を実施しました。
  - ★平成29年10月14日、花王グローバルテクノスクールの生徒さん19名が和歌山工場の見学に来られました。来社された19名の内、海外の方は9名(アメリカ、タイ、インドネシア、中国、フィリピン、ベトナム等)で現地の工場で技術者として活躍されているそうです。工場見学後は、近隣のスポーツパークで地元の八幡中学校の生徒さんを交え昼食を兼ねた交流会も開催されました。





★平成30年5月29日、一般財団法人海外産業人材育成協会(AOTS: The Association for Overseas Technical Cooperation and Sustainable Partnership)の研修で、メキシコの製造企業において生産管理・工程管理に携わっている19名、通訳の方2名協会関係者の方2名が和歌山工場の見学に来られました。今回の御来訪は、弊社の環境活動を御指導いただいているエコアクション地域事務局大阪の中田さんのご紹介で実現しました。当日は、弊社の改善・環境への取組を紹介させて頂いた後、工場内を見学頂きました。









# 台風による被害

- ●台風21号により本社及び和歌山工場が被害を受けました。
  - ★平成30年9月4日、「非常に強い」勢力で上陸し、近畿地方を中心に甚大な被害を出した台風21号の影響で、和歌山工場ではテントが風にあおられ破損したほか、工場の屋根が剥がされたり飛散物で穴が開いたりしました。また、トイレのドアガラスも飛散物により割れました。本社でも光回線が断線し、電話、ネットが通じない状態が16日間続きました。なお、台風接近により安全のため本社、和歌山工場とも臨時休業としたため幸い人的被害はありませんでした。







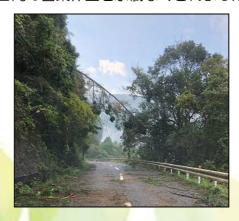






★和歌山工場に至る国道480号線も、暴風の影響で電柱や木が倒れ通行が困難となりました。また、工場周辺地域で停電となり2日間の営業休止を余儀なくされました。





今回の台風の被害は、災害への備え、BCP対策の重要性を改めて痛感する出来事でした。 今後の活動にこのような内容も取り入れていきたいと思います。地球温暖化が進行すれば、 今回と同規模又はそれ以上の台風が発生する可能性があります。私たちはエコアクション 活動を通じ、私たちの地球を守るため環境活動を継続して参ります。

# 環境関連法規制等のとりまとめ

●環境関連法規制等への違反はありません。また、関係当局により違反等の指摘及び近隣住民からの苦情は過去3年間ありません。

環境関連法規制の名称	該当する要求事項	該当する設備・項目		
	• 委託契約書			
	• 保管基準	<ul><li>・混合廃棄物の委託管理</li><li>・廃油の委託管理</li></ul>		
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	• 産業廃棄物管理票の発行と保管			
	• 産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出			
	• 特別管理産業廃棄物管理責任者の選任			
騒音規制法	• 特定施設設備の届け出	・液圧及び機械プレス、せん断機、コンプレッサー等		
製 目 水 巾 / △	・基準値(65db)の遵守	・ 校正及い域域クレス、 ピ/0回1版、コンプレッサー寺		
振動規制法	• 特定施設設備の届け出	・液圧及び機械プレス、せん断機		
	・基準値(65db)の遵守	・/XL/XUIXIUXグレス、E/UBIIX		
フロン排出抑制法	• 廃棄、修理時の回収義務	・業務用エアコン		
プログ排出批問込	・簡易定期点検、定期点検の実務	・未物用エアコン		
净化槽法	• 浄化槽の保守点検実務	• 浄化槽		
/FIUTE/A	・年1回の浄化槽定期点検実務	가게다		
消防法	・ 少量危険物貯槽所の届け出			
	• 保管量の遵守	・灯油、塗料、シンナー貯蔵取扱い、火災報知器、消火器		
	・消防施設点検と報告	「八川、土村、ノノノ「川原城以び」、 八火和和命、 石火命		
	• 防火管理者の選任			
毒物劇物取締法	・施錠、劇物表示、飛散漏れ防止	• 洗浄剤		

# 代表者による全体の評価と見直し

昨年度の環境コミュニケーション大賞優良賞受賞により、弊社環境活動は注目を浴び、今年度はAOTSよりメキシコの研修生の方が大勢工場見学に来てくれました。今後も受賞企業の名に恥じない活動を展開していきましょう。

また、環境活動の指標と経営の指標をもっとリンクさせて表現できる方法も検討していきましょう。「これだけ電気量を削減すれば利益はこれだけ増加する」といったように、利益と直結するものとして各評価項目を意識していただくことで、目標達成のモチベーションを高めることができると思います。

なお、現状では事務局に大きな負担が掛かっています。改めて、事務局をサポートできる 人材の育成も進めてください。

<sup>※</sup>環境経営レポートの作成につきまして、ガイドラインには事業年度終了後速やかに作成することとありますが 仕事業務の多忙により作成遅延させてしまったことをお詫び申し上げます。





